

【MedTec Forum】 編入学第1回生として入学して

編入学第1回生

臨床検査は病気の診断や治療の経過などを評価するために必要な情報であり、重要なものです。的確な医療には、正確な生体情報を迅速に収集して的確な分析をすることが大切で、そのためには、医師や看護師等の医療スタッフとのチーム医療が、これから更に大切なものになり、求められるものも大きくなると思います。また、医療の分野に限らず、保健や福祉などの領域でも検査が広く行われてきているので、各フィールドに適した検査や医学についての知識が必要となってくるでしょう。目まぐるしく変化する医療の中で専門知識と実践のレベルが高く、倫理観の豊かな人間性で、患者さんから信頼されることが、これからの臨床検査技師に求められるものだと思うし、私の目指す臨床検査技師像です。

私は今まで筑波大学医療技術短期大学部で3年間多くのことを学び、3月に臨床検査技師国家試験を受験し、無事国家資格を取得することができました。私の友人の多くは、臨床検査技師の資格を生かして、病院や企業に就職し、それぞれの場所で活躍しています。私が筑波大学医学専門学群看護・医療科学類に編入学したのは、人々のニーズにあった質の高い医療技術を提供し、それぞれの専門性を生かして、保健、医療、福祉チームの一員として協働できるような臨床検査技師になるために、短大で勉強してきたことを生かしつつ、もっとより多くの専門知識を身につけたいと思ったからです。また、医療現場で実際に活躍している先生方から、症例や検査方法、現場での体験談などを短大時代に学んだことによって、病気の原因や解析に役立つ検査技術や医学的知識だけでなく、医療の近代化・病気の複雑化により、検査内容もより高度で複雑なものが求められていることを強く感じました。まだまだたくさんのことを勉強してみたいと思います、編入学することを決めました。

実際に1学期を終えてみて、今まで『広く、浅く』的だった教科も、『より広く、深く』勉強することができたと思います。筑波大学は、先生と生徒との結びつきが非常に強いので、勉強する環境が非常に良いということに改めて感じました。基礎科目の履修も多いのですが、他の学群の先生や生徒と出会うことができるので、楽しく勉強しています。これからは短大では勉強できなかった専門科目もたくさん開設されるので、色々楽しみます。

筑波大学に編入学して約半年、充実した生活を送っています！（AA）

私が編入学先として筑波大学を選んだ理由は、筑波大学が勉強や研究をしていくのに適した環境だといえるからです。筑波大学では看護・医療科学類の授業だけではなく、他学類の授業も受講することが可能であるため、医学的知識のみならず幅広い知識を身につけることができ、かつ他分野の人たちとの交流により新たなものの考え方も生まれてくると思います。

第1回編入生5人全員が筑波大学医療短期大学からの編入だったので、編入当初は短大時とあまり変化がないように感じました。しかし1学期の途中からは、在学生との講義・実習が始まりました。最初はとまどいもありましたが、今ではすっかりその環境にも慣れました。筑波大学は単位認定が厳しいため、短大時にやった講義・実習を再履修しなければならないという欠点もありますが、そのおかげで在学生との交流が増えたのも事実です。

編入学をしたからには短大で学んできたことにプラスして知識や技術を身につけていき、それを実際の臨床の場で役立て、少しでも医療に貢献できたらいいと思っています。

（YS）

私は、3年制の医療技術短大を卒業して、この看護医療科学類・医療科学専攻に編入学しました。短大では、1年生のときから臨床検査技師になるための専門的な勉強をし、卒業後、国家資格を得ました。しかし、当時の私は検査だけではなく、研究の方面にも興味があったため、もう2年大学で勉強をし、視野を広げてから自分の進む道を決めようと考えたのが動機です。

大学では、短大に比べ時間に余裕があるため、自分の興味のある授業を多く選択することができます。また、その分、卒業研究にも熱心にとりかかることができ、充実した学生生活をおくることができると思います。この筑波大学の特徴として、キャンパスがとても広くて医学系の学部が孤立しておらず、他学類とも交流が多いのも魅力の一つだと考えます。他学類の授業を選択することもできます。この先自分が、臨床検査技師として働くのか、研究職につくのか、大学院に行くかはまだはっきりしていませんが、この2年で学ぶものは決して無駄にはならないと思うので、この大学生活を充実したものにし、将来につなげていきたいと考えています。(YM)

本学に編入学して、早、半年が経過したが、授業と研究室、そしてバイトの毎日である。

私は短大の2年次から3年次に進級するとき、進学するか就職するかでかなり迷っていた。そのときの選択肢はおおまかに、病院に臨床検査技師として就職するか、編入学して学生を続けるかの二つであった。普通にデイトムで臨床検査技師として働くのであれば、進学する必要はないだろう。しかし、国家資格を持っていても、しょせん短大出身、準学士。せめて学士くらいもってないと、このご時世ダメなのではないだろうか、などなど、悶々と考えていた。そんな中、一足早く卒業研究のため研究室に行き始めて、初めて研究というものがどのように行われているかを知った。卒業研究、といってもせいぜい半年くらいの研究で結果が出るはずもなく、研究室の雰囲気を経験すると

いう感じだったのだが、あと2年間しっかりやったら少しでも結果が出せるのではないかと思った。就職なら、いつでもできる。あと2年間学校に通って、何か結果が出せたらまたまた違うものが見えるかもしれない。そう思えたから編入学した。

編入学後の生活は、国家資格も持っているし、授業もほとんどなく研究室にずっといられるのだろうと考えていたが、そうでもなかった。単位が認定されなく、とらなければいけない授業が割とあり、と言っても一般の同学年の学生の半分くらいではあるが、ずっと研究室に引きこもるという訳にはいかなかった。他の編入生はともかくとして、私は研究室を決めていたので授業以外は研究室という毎日。私の場合は決して暇とは言えない生活を送らせてもらっているが、時間の使い方はその人次第だと思う。そして研究をしていて思うことは、2年では足りないのではないか、ということ。

なんだかんだ言っても、やはりまだまだ学歴社会。私は筑波大学に編入学したことは間違いではないと思っている。しかし、1年半前に迷っていたように、私はまた、就職するか進学するかで迷っている。しかも、下手に四年制大学卒とかになるので、選択肢がかなり広がってしまった。就職するにしても、病院なのか一般企業なのか、はたまた小さなクリニックなのか。それとも、大学院に進学するのか。それとも今の研究室に残るのか、他の研究室に行くのか、他大学を受けるのか。こんなとき、優柔不断な自分の性格が嫌になる。最近は修士号まで持っている人が多いので、大学院までいった方が良いのではないかと思うのだが、結局はそこで何をするか、自分の将来にどうつなげていくかだと思う。もし私が編入学をしたのではなく、普通に今の大学に入学していたら、あまり考えもせずに大学院への進学を希望していたかもしれない。しかし、なんとなく大学院に行くよりは一度社会に出た方が良いのではないかと今は考えている。編入学した今だからこそ、このように考えられるのだと思う。

どの道に進んだにしても、一生懸命やれば

良いと言われたが、どの選択肢が一番自分を満足させられるかが分からない。いろんな方々に意見を聞いても結局決めるのは自分自身。納得のいく答えが出せたら、と思っている。
(RY)

私は、筑波大学医療短期大学部を卒業し、ここ医療科学主専攻へ3年次編入をしました。編入学をしようと思ったきっかけは、ある分野に興味をもちはじめたことでした。当時私は、臨床検査技師という職種に本当に興味をもっているのだろうか、この職業につき、ずっと働いていけるのだろうかと不安に感じており、それと同時に再生医療という新たな分野に興味を持ちはじめたため、自分の進路を決めることができずに迷っていました。もっと、再生医療のことや、そのほかのいろいろなことを学びたいという気持ちが大きくなり、大学院へいくことも考えはじめたので、編入学をしようと思ったのです。実際入学してみると、こま数の関係で短大のころと同じ授業を重複して受けなければならなかったり、他学の授業が受けられなかったりと、期待はずれな面が少々ありましたが、短大のころとは違った授業もうけることができ、また、4年生になると卒業研究のため自分が興味を持った研究室へ入ることもできるので、とても将来の進路に選択肢が増えたように感じます。今では進路への不安もきえ、編入学をしたことは自分にとって非常に自信につながり、いい経験となっていると感じています。
(HI)